

# 救急医療の現状にご理解を！

市では、市民皆さんの万が一に備え、「平日の夜間」「土曜の午後・夜間」「休日の昼間・夜間」と年間を通して休みなく、救急医療体制を実施しています。しかし、近年、受診マナーの低下、深夜や市外からの受診も含めた件数の増加など、当番医等に過重の負担がかかることにより、この体制を続けていくことが困難となる状況が見受けられるようになりました。

地域の医療機関を守っていくのは、行政はもちろん、救急医療を受けることができる市民皆さんです。より良い医療を受けるために、皆さんのご理解とご協力をお願いします。

健康推進課 ☎23-5311

## 体制維持を困難にする現状

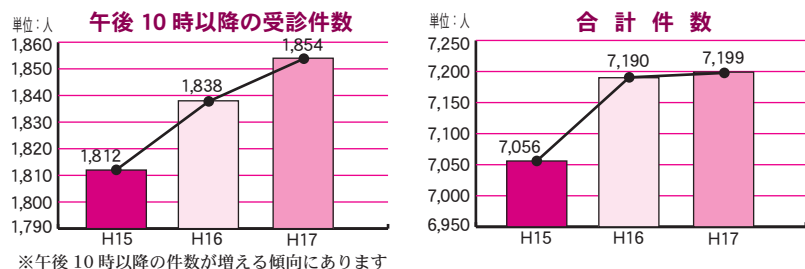
現在、次のような本来の救急に当たらない理由で、救急医療を受診する人が増えています。

- ▼かぜなどの軽症者
- ▼待ち時間が少ないから
- ▼日中は忙しいから
- ▼飲酒し、酔ったことを病氣と称して

このような事例が今後さらに増えていった場合、本来の受診者が利用できなかつたり、当番医や看護師等の心身への負担が増し、翌日の診療に影響するなど、結果として、救急医療の体制維持が困難になることが考えられます。

今、救急医療に対する皆さんのご理解と適正な利用が望まれています。

平日夜間・土曜午後及び夜間の救急医療事業における年間患者件数の推移  
(市と大崎市医師会が協定を結び実施する単独事業)



普段から心がけておくこと、急病やけがのときの対処方法

## 日ごろから

- 日ごろから、自分の健康は自分で、家族の健康は家庭で守りましょう。
- いざという時のために、正しい応急手当の知識を身につけましょう。

- 近所にかかりつけ医を持つと、急病などのとき頼りになります。あらかじめ、休日や夜間の急病のときに、どのような対処をしてもらえるのか、相談しておくことを勧めます。

- 家庭常備薬を備えておきましょう。
- 「広報おおさき」などは、見やすいところへ保管し、救急当番医の電話番号などがわかるようにしましょう。

- 急病以外は、診療時間内に受診しましょう。
- 夜間・休日の病気のときに夜間・休日の急病時は、まず落ち着いて、かかりつけ医に相談しましょう。

- かかりつけ医に相談した結果、一晩安静にして家庭で様子を見たほうが良いと判

- 断された場合は、次の日にかかりつけ医を受診しましょう。
- 救急車の安易な利用はさけましょう。

## 受診のときに

- 必ず自宅から救急当番医に電話で確認しましょう。
- 救急医療はあくまで急な病

医療費の負担を減らす「賢い受診術」を紹介します

「はじ」受診」は禁物です「はじ」受診」(次々に受診先を替えること)をすると、その都度初診料がかかります。はじめは「かかりつけ医」を受診しましょう

紹介状なしで二百床以上の大きな病院に受診すると、全額自己負担の特定療養費(病院によって料金はさまざまです。)がかかります。

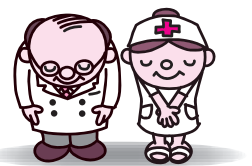
市や職場で行う各種検診を必ず受けましょう

生活習慣病など、進行してからの治療には多額の医療費がかかります。医療機関からの領収証は大切に保管しましょう

領収証は必ず保管し、年間いくつか医療費に使っているのか確認しましょう。



救命救急センターや夜間・休日診療は救急の時に利用しましょう



皆様のご協力をお願いします

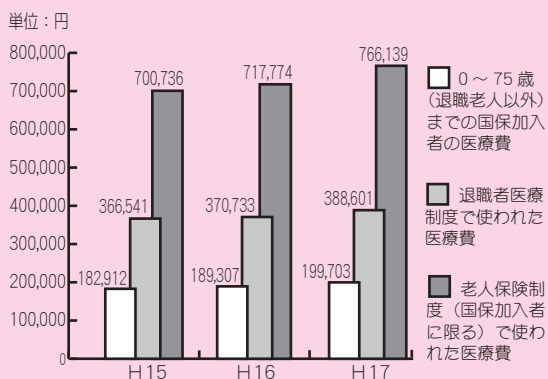
# 医療費の節約に取り組みましょう

国民健康保険(国保)は、みんなでお金を出し合い、個々の医療費の自己負担を軽減しようという助け合いの制度です。職場の健康保険に加入している人や、生活保護を受けている人を除くすべての人が、国保に加入しています。

医療費の増加は、皆さんが納める保険税負担の増加にもつながります。医療の受け方を見直してみませんか。

☎ 保険給付課 ☎ 23-6051

1人当たりの年間医療費(宮城県)



## ポイント1 重複受診を避けましょう

- かかりつけ医を信頼してその指示を守り、ほかの医療機関を受診する際には紹介状をもらいましょう。

## ポイント2 時間外受診を避けましょう

- 日ごろから自分や家族の健康状態を知っておきましょう。体調が悪ければ、早めに時間内に受診しておきましょう。
- あらかじめ、かかりつけ医に体調を崩した際のアドバイスを受けておきましょう。
- 体調が変わりやすい乳幼児の場合は、軽い症状でも早めに時間内に受診しておきましょう。

## ポイント3 薬と上手に付き合しましょう

- 医療機関では、むやみに薬を欲しがらないようにしましょう。
- 処方された薬は他人にあげたり、もらわないようにしましょう。
- 医師や薬剤師の指示(服用時間や服用期間など)を守りましょう。
- 薬をもらうとき、別の病気などで服用中の薬があれば、必ず医師や薬剤師に知らせましょう。漢方薬や市販薬の場合でも同様です。

## 一人あたりの医療費

皆さんが医療機関の窓口で支払っているのは、医療費の一部であり、残りは国保が負担しています。国保からの支出は、近年高い状態が続いていて、なかでも高齢者の医療費が大きくなっています。

(※グラフ参照)

## なぜ医療費が高くなっているのか

医療費が増えている理由としては、社会的背景や、医療の受け方が原因になっている場合があります。

## 1 医療機関へのかかり方

かぜなど軽い症状にもかかわらず、最初から大病院で受

診したり、複数の医療機関を駆けもちしたり、医師の指示を守らないなどは、医療費がかさむ原因になります。

## 2 進行する高齢化

医療を受ける回数や期間が長い高齢者が増えたことによつて、医療費も増えてい

## 3 生活習慣病の増加

日ごろの生活習慣が大きな要因で起こる生活習慣病が増えていきます。これらの慢性疾患は治療に長い期間がかかるため、医療費がかさんでしま

## 4 医療技術の進歩

新しい医療機器や新しい薬が開発されたことで、これまで治療が難しかった病気も治すことができるようになり

したが、それに伴い、治療にかかる費用も増えています。

## 医療の受け方を見直しましょう

医療の受け方を工夫することで、医療費の増加を防ぐことも可能です。

## 1 重複受診をやめましょう

同じ病気で複数の医療機関にかかるとは控えましょう。病院を替える、また初診料を支払い、同じような検査や処置が繰り返されて費用もかかります。

また、余分な投薬や注射などを繰り返すことで、体への負担や副作用も心配されます。

(※ポイント①参照)

## 2 時間外受診を避けましょう

休日や診療時間外の診療は、緊急の場合など、やむを得ない場合以外は避けましょう。時間外診療は、医師にとつても負担になるばかりでなく、初診料や再診料に時間外加算が上乗せされますので、医療費が余計にかかってしまいます。

## 3 薬は用量・用法を理解して正しく使いましょう

自分の判断で量を加減したり中止したりすると、薬が効かなくなったり、体にも悪影響を与えたりする場合があります。

指示された用量・用法を守って正しく使いましょう。

(※ポイント③参照)